

単元名 ゲーム(ネット型ゲーム)プレルボール

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) ネット型ゲームでは、その行い方を知るとともに基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームをすることができる。
 (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
 (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

標準的な展開例

03100301_001

【準備等】ソフトバレーボール、ライトバレーボール、ドッジボール、カラーコーン、バトミントン用支柱ネット、ゴムひも、得点板など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ネット型ゲームのねらいと内容を理解し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方を知る。 ★ルールを工夫してゲームをしよう。 ＜ルールの例＞ 自陣にバウンドさせてから味方にパスをしたり相手コートに返したりする。 片手や両手を握ってボールを打ちつける。 時間制（5～8分）で得点を競う。 必ず3回で相手コートに返す。 バトミントンコートのラインを使用する。 ネットの高さは50cm。 <p>○学習カードの使い方を知る。</p> <p>○マナーや安全な運動の仕方について知る。</p> <p>○チームを編成する。</p> <p>2～4 簡単なルールでゲームを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プレルボールに関連した体ほぐしの運動をする。 ○ドリルをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・1人で投げ上げキャッチ、強くたたきつけてキャッチ 2人組でのバウンドパス、チームでのバウンド円陣パス げんこつでバウンドさせる、両手で、片手で ○ゲームの進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○チームの課題や作戦を話し合う。 ○第1ゲームをする。 ○反省し、練習する。 ○第2ゲームをする。 ○反省し、まとめをする。 <p>5～6 プレルボール大会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体ほぐしの運動をする。 ○ゲームの進め方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナー、対戦相手 ○ゲームをする。（活用） ○第6時は、単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットをはさんでラリーを続けたり、ボールをつないだりして行うゲームの特性を理解させる。 通常のソフトバレーボールのルールや場にとらわれず、児童の実態に合ったルールや場で行う。 ＜ルールや場の例＞ ボールを軽量のビニールボールにする。 両手や平手で打ってもよいことにする。 2回目のボールはキャッチしてもよいことにする。 ネットの高さを低くする。 ・1チーム4～6人、男女混合で編成する。 ・ボールを打ったり、ボールに合わせて自分が動いたりする運動を行う。 ・バウンドさせたり、パスをしたりして基礎技能習得のためのドリルをする。 【評】チームで協力して練習を行う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・児童の実態とゲームのルールや場が合っているかを観察し、確認する。 ・課題が立てられないチームには、話し合いに教師が加わって助言する。 ・ゲームの結果から、チームの課題にそった動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。 【評】チームに合った練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。 ・チームに合った作戦を立てさせる。 【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。 ・チームでの話し合いや学習カードによる自己評価などをさせる。

【 備 考 】

ネット型のゲームはネットで区切られたコートの中で攻防を組み立て、一定の得点に早く達することを競い合うことを課題としたゲームである。プレルボールは自陣の床にこぶしまたは前腕を用いてボールを打ちつけ、味方にパスをしたり、自陣のコートにボールを打ちつけて低いネットを越し、相手のコートにボールを返したりするゲームである。本単元では、プレルボールを基として簡易なゲームを行うこととする。ネット型ゲームの導入として行うため、平手打ちや両手打ちを許容し、チームの人数、ネットの高さ、コートの大きさなどを工夫することで子どもたちに楽しさを味わわせていく。

【運動が苦手な児童への配慮の例】

- ・いろいろな高さのボールを片手、両手もしくは用具を使ってはいじったり、打ちつけたりすることが苦手な児童には、飛んできたボールをキャッチして打つことを認めるなどの配慮をする。
- ・ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることが苦手な児童には、プレイできるバウンド数を多くしたり、飛んできたボールをキャッチしてラリーを継続したりするなどの配慮をする。